

高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年7月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第27週(7月4日～)から第30週(～7月31日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における7月の上位6疾患の合計は36.22で6月の4週間換算値29.78と比べて増加した。その原因は夏の感染症である手足口病とヘルパンギーナの増加に加えて、寒冷期の感染症であるRSウイルス感染症の増加である。同時期を過去10年間で比較すると、新型コロナウイルス流行前の40～80台と比べると少ないが、コロナ後の3年間で比べると年々増加してきている。

1位は感染性胃腸炎で14.52(6月1位4週換算値が21.24)と減少した。2位は手足口病で8.44(同2位1.94)、3位はRSウイルス感染症で8.42(同2位1.94)、4位はヘルパンギーナで2.14(同8位0.44)といずれも増加した。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.36(同6位1.40)と横ばいだった。6位は突発性発疹で1.34(同5位1.61)と減少した。

サル痘 Monkeypox が注目されている。2022年1月1日～7月20日に、72カ国から疑い例と検査確定例あわせて14,533例のサル痘患者がWHOに報告された。2022年5月初めの時点では、47カ国から3,040例の報告だったが、3か月足らずのうちに大幅に増加した。日本でも7月に2名の患者が確認された。サル痘に有効とされる天然痘ワクチンの製造が準備されつつある。

<全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19>

オミクロン株(○株)による第6波は2022年1月に始まり、2月のピーク以降の減少は緩やかで高止まりした。○株は、α株(英国型変異株)やδ株(インド型変異株)に比べて、感染力が強く、潜伏期が約3日と短い、肺よりも上気道で増殖し、重症化しにくい、そして小児感染例が多い。2022年になってウイルス変異株は同じ○株ではあるが、当初の亜種BA.1.1からBA.2に、さらにはBA.5へと主流が置き換わってきた。流行は都市部から地方へという方向性を持って進んでいるようである。BA.5は最強な感染力のために感染者数が激増し、第7波の7月には、再び病床及び発熱外来の逼迫が叫ばれている。さらに感染力を増したインド由来とされるBA.2.75系統の○株が日本でも検出されはじめており、今後の主流株になるのか注目されている。

現時点でCOVID-19の臨床像は、高熱、強い咽頭痛、頭痛が三主徴であるが、他の感染症との区別は容易でなく、抗原検査や核酸検出などの病原体診断が必要である。

世界的には、患者数は5億7千万人を、死亡者は640万人を超えた(図1;8月2日時点)。8月に入って、日本ではこれまで粘り強く続けてきた全数報告が限界に達しており、今後数字は推測値にかわっていくだろう。すでに諸外国の数字は、目安としての意味しかもたなくなっていると思われる。患者数を国別にみると、1位米国(9,147万人、人口あたりの感染率27.64%)、2位インド(4,405万人、感染率3.19%)、3位フランス(3,407万人、感染率52.21%;感染率トップ)、4位ブラジル(3,385万人、感染率15.93%)、5位ドイツ(3,095万人、感染率36.95%)、6位英国(2,351万人、感染率34.64%)、7位イタリア(2,105万人、感染率34.83%)、8位韓国(1,993万人、感染率38.88%)、9位ロシア(1,834万人、感染率12.57%)、10位トルコ(1,588万人、感染率18.84%)である。

日本の患者数を図1右に示す。2021年4月～6月はα株、7～8月はδ株の流行による患者急増と死亡がみられた。9月以降は増加がゆるやかとなり、ワクチンの効果と思われた。しかし、2022年に入って○株による感染爆発(第6波)が起きた。2月初めには、ピーク時に国内感染者数が10万人/日を超え、その後高止まりし減少は緩やかとなった。月間感染者数は2月約200万人、3月約140万人、4月約120万人、5月約100万人、6月約50万人であった。BA.5が主流株にかわって第7波を形成し、7月は約350万人を記録した。8月2日現在の国内感染者は12,917,500人、死者数は32,694人である。

COVID-19は高齢者ほど重症化しやすいが、第6波以降に致死率が低下した。感染爆発により病床使用率が上がり医療逼迫が懸念されているが、7月の時点では高齢者層においても致死率は高まっていない(図2)。δ株が流行した昨8月-9月までと、○株による第7波までとで致死率を比較すると、80代以上 約14.0%→5.0%、70代 約5.0%→1.6%、60代 約1.4%→0.4%と低下しており、○株になって軽症化は明らかであり、ウイルス馴化の過程と思われる。

経時的な年齢階層別患者数を図3Aに、7月26日の時点で累積感染者数が人口に占める割合を図3Bに示す（総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf>）。感染者の割合は、10歳未満がトップで16.98%（100人当たり16.98人が感染）、次いで10代が15.64%、20代が15.19%、30代12.90%、40代9.55%と続いている。当初は「おとなの感染症」であったが、 \omicron 株になって「子どもに多い感染症」に変わった。保育施設に通う乳幼児の感染拡大は、医療者の労働力不足を招き、医療現場で新たなかたちの逼迫も加わっている。 \omicron 株は軽症であるので、当該感染症に対する考え方は見直しの段階に入った。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		4.55	4.22	3.02	2.73	14.52
2	手 足 口 病		1.42	1.87	2.14	3.01	8.44
3	RS ウ イ ル ス 感 染 症		1.51	2.26	2.30	2.35	8.42
4	へ ル パ ン ギ ー ナ		0.34	0.51	0.54	0.75	2.14
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.40	0.42	0.26	0.28	1.36
6	突 発 性 発 疹		0.39	0.37	0.30	0.28	1.34

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

日常的感染症は前月より減少し、依然として低調である。高知県の7月の上位6疾患の合計は15.14で6月の4週換算値17.16と比べて減少し、全国よりも少なかった（表2）。過去10年の同月で比べると2019年の14.41に次いで2番目に少なかった（コロナ前の2019年以前は20～70台）。昨年は7月に爆発的なRSウイルスの流行があったが、今年はまだ流行が始まったところである。

1位は感染性胃腸炎で6.79（同1位9.89）と減少し全国よりも少なかった。2位はRSウイルス感染症で2.86（同12位0.03）と増加したが全国よりも少なかった。3位は咽頭結膜熱で1.82（同2位2.11）と減少したが全国よりも多かった。4位は突発性発疹で1.62（同3位2.09）と減少したが全国よりも多かった。5位は流行性角結膜炎で1.34（同5位1.06）と増加し全国よりも多かった。6位は同数0.71でA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と水痘が並んだ。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6月4位1.71から減少し、全国よりも少なかった。水痘は6月0.30から増加し全国よりも多かった。

<高知県のCOVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図4に示す。2021年8月は東京五輪とともに急増し計1,382人に昇った（8月25日にそれまでの1日最多の111人）が、11-12月の小休止をはさんで、2022年1月から急増し第6波に突入（2月11日に最多の311人）した。3月、4月と小幅に減少したが、GWで5月は再び患者数増加に転じ、5月10日に最多の366人を記録し、5月は合計6,178人と月間最多となった。6月は3,055人で半減した。7波の7月は、1日最多を5回塗り替え、月間最多の12,900人を記録した。8月に入っても、2日1,023人、4日に1,164人と最多を更新しており、ピークアウトを見通せない状況となっている。

8月2日時点の集計では感染者は44,943人、死亡は先月から5人増えて121人となった。死亡数の相対的減少はやはり \omicron 株が軽症であることを物語っている。集団発生（クラスター）はGW後に再増加したが、その後減少し、6月下旬以降は再び増加に転じている（図5）。学校や乳幼児施設、医療機関、高齢者施設でのクラスター発生は常態化している。

2022年2月以降に高知県で検出および解析されたウイルス変異株の内訳を図6に示す。1月上旬の大半は δ 株であったが、1月中旬以降に \omicron 株（BA.1）が増加し、主たる流行株に置き換わった。3月中旬になって \omicron 株の亜種であるBA.2が検出されるようになり、4月以降に主流株になり勢力が塗り替えられた。6月22日に採取された検体からBA.5が県内で初めて検出された。その後は7月1日～20日までに採取された臨床検体のうち、50%（50検体/101検体）の検体でBA.2が、40%（40検体/101検体）の検体からBA.5が検出されており、BA.5が一気に主流株となっていくと予測される。

県の対応ステージは、2021年8月19日に「非常事態（紫）」に引き上げられたが、10月28日には「感染観察

（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられ、さらには、2月12日～3月6日まで本県に「まん延防止等重点措置」が適用された。3月24日には病床利用率の低下を受けて「警戒（オレンジ）」に引き下げられた。7月の第7波で、「最大確保病床の占有率」が40%を超え、「直近7日間の70歳以上の新規感染者数」が490人/週を超えたため、7月29日、対応ステージを「警戒」から「特別警戒（赤）」に引き上げた。

コロナワクチンについては、3回目のブースター接種が進められ、3月から5-11歳の小児への接種が開始された。12～19歳でも2回接種を受けた者が71.4%に昇り、3回接種を済ませた者も各世代でじわりと増えた（表3）が40代以下の若年層では不十分であり勧奨の対象となっている。基礎疾患を有する者、高齢者、医療者を対象に4回目接種も進められている。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	27週	28週	29週	30週	計
1	感染性胃腸炎		1.43	1.96	2.11	1.29	6.79
2	RSウイルス感染症		0.04	0.61	0.71	1.50	2.86
3	咽頭結膜熱		0.75	0.46	0.36	0.25	1.82
4	突発性発疹		0.36	0.29	0.36	0.61	1.62
5	流行性角結膜炎		0.67	0.00	0.00	0.67	1.34
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.25	0.18	0.14	0.14	0.71
	水痘		0.18	0.07	0.21	0.25	0.71

図1. 2022年8月2日時点でのCOVID-19（厚生労働省HPから）

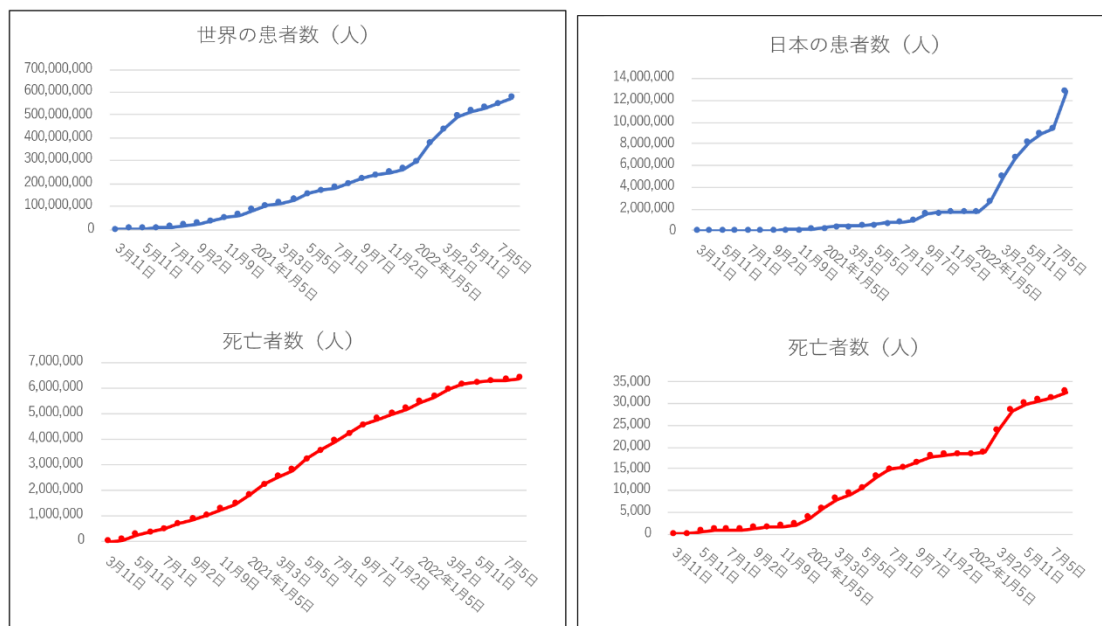


図2. 高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

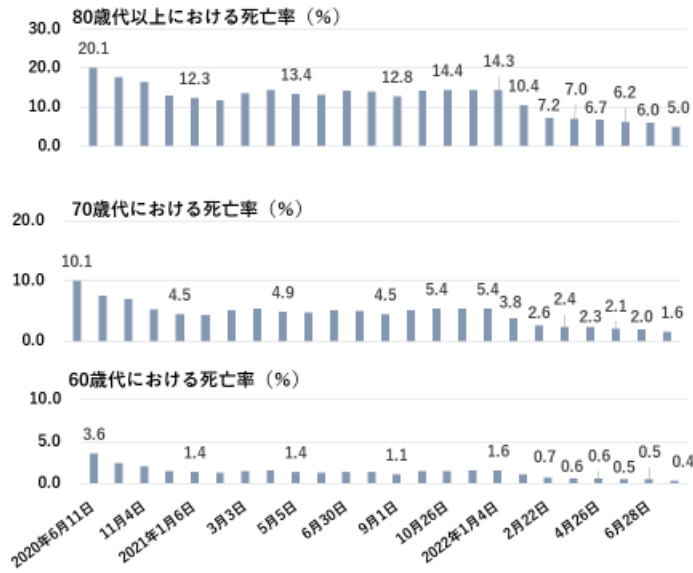


図3A. 経時的な年齢層別感染者数

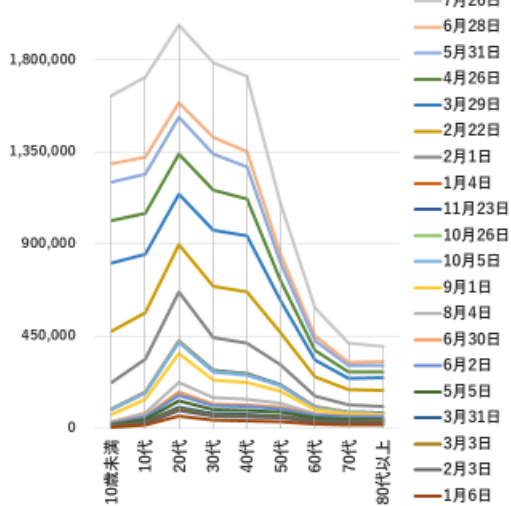


図3B. 年代階層別感染者割合

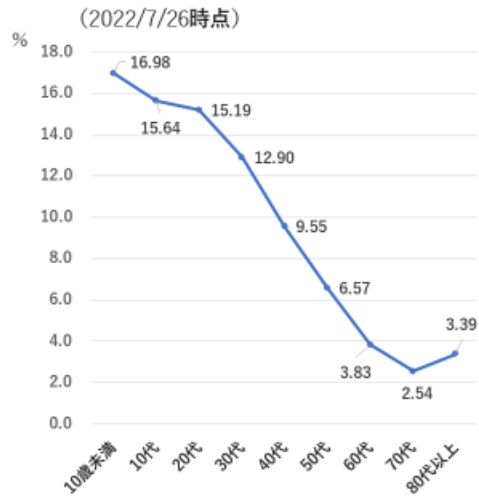
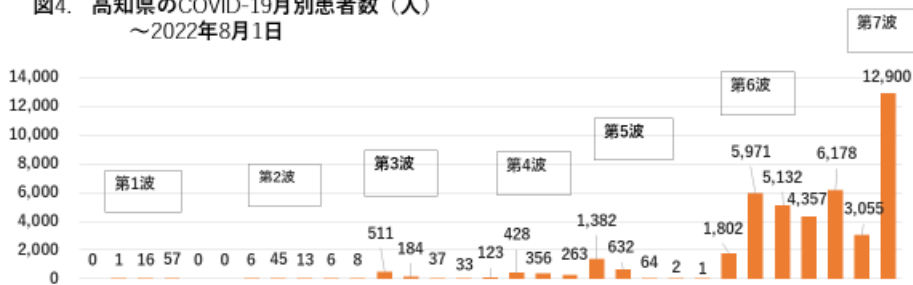
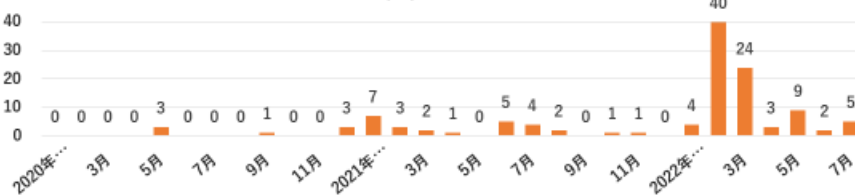


図4. 高知県のCOVID-19月別患者数 (人) ~2022年8月1日



高知県のCOVID-19月別死者数 (人)



件 図5. 県下のCOVID-19集団発生件数（2022年）

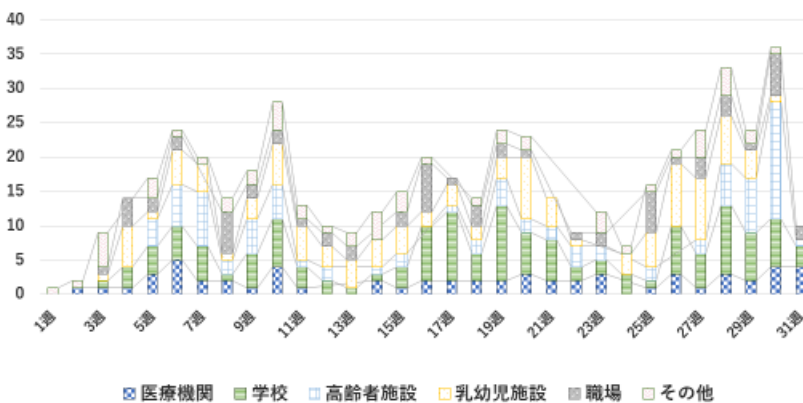


図6. 2022年に高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

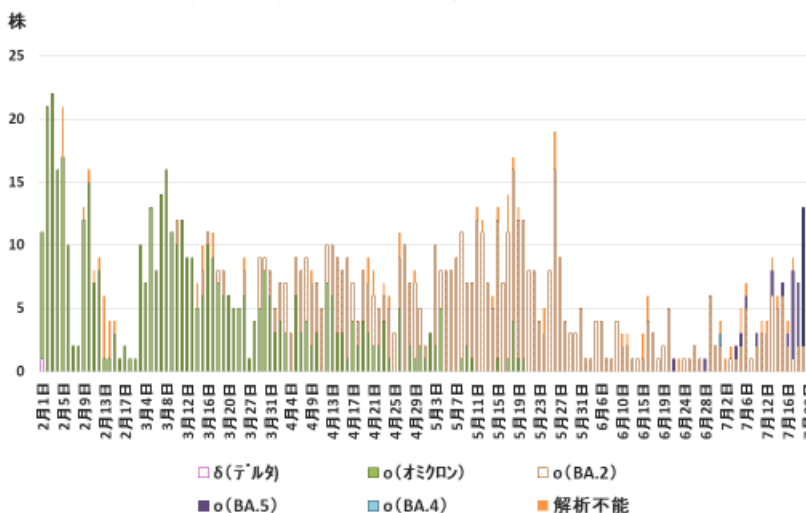


表3. コロナワクチン2回目および3回目の接種率
(2022年7月31日時点)

	2回接種	3回接種
全国（対象者）	84.0%	65.4%
県全体（対象者）	82.4%	64.6%
高知県 65歳以上	90.4%	85.5%
同 60～64歳	86.8%	78.1%
同 50代	86.3%	72.0%
同 40代	79.0%	57.1%
同 30代	75.2%	49.5%
同 20代	77.7%	46.9%
同 12～19歳	71.4%	32.8%
同 5～11歳	16.8%	-

1回目を受けた11歳以下は18.56%
4回目接種（60歳以上）は22.32%

2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。パンデミックによる衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての病原体を検出する事業を1月から休止している。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 0名（6月 0名）。2020/21年に続いて2021/22シーズンも流行がなく、これは統計がある1998年以降で初めてである。しかし、寒冷期を迎える南半球のオーストラリアでは3年ぶりにインフルエンザの流行が起きていることは示唆的である。

2) 咽頭結膜熱

報告数 51名（6月 74名）。新型コロナで日常感染症が減る中、4月までは多めで推移したが、5月は例年通りの数となっていた。6月は増加して過去10年間では2019年に次いで2番目に多かったが、7月は平年並みに落ち着いた。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。アデノウイルスとの関連が否定できない小児の重症肝炎が世界的に報告されており注目されている。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 20名（6月 60名）。平年並みの報告数だった。須崎、幡多、高知市、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 190名（6月 346名）。同時期で過去10年間で最も少ない報告数だった。県下全域から報告されたが、高知市、幡多、中央西が特に多かった。

5) 水痘

報告数 20名（6月 10名）。ここ10年では2019年、2018年に次いで少なかった。県下全域から報告があり、高知市、須崎が多かった。

6) 手足口病

報告数 9名（6月 9名）。関東甲信越では流行が始まっている。例年は5-6月に流行が始まるが、今年は4月以降は続けて過去10年で最も少ない報告数で、まだ高知県では流行は始まっていない。高知市、安芸、中央東から報告された。

7) 伝染性紅斑

報告数 2名（6月 0名）。2020年9月以降は1けたの少ない報告数が続いている。

8) 突発性発疹

報告数 45名（6月 73名）。想定内の変動でほぼ一定である。

9) ヘルパンギーナ

報告数 19名（6月 6名）。関東を中心として流行がみられる。手足口病と同様に例年は5-6月に流行が始まるが、今年はまだ流行は本格化していない。同時期としては過去10年で2020年に次いで少ない報告数だった。中央東、高知市、幡多、中央西から報告された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 2名（6月 7名）。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、2月以降も一桁で少ない報告数が続いている。安芸、中央東から報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 80名（6月 1名）。コロナ流行開始後の2020年は、11月～3月は異例のゼロが続いた。2021年は5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、10月以降は終息した。2021年夏は季節外れの爆発的流行があったが、その後の秋以降に流行がなかった。2022年7月は増加した。本県と交流の盛んな大阪、東京、愛媛では比較的大きな流行がみられる。中央東、高知市、須崎、中央西、幡多から表記の順に多く報告された。

12) 流行性角結膜炎

報告数 4名（6月 4名）。高知市で4名が報告された。

13) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（6月 0名）。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（6月 0名）。従来は年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019

年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく、今年もゼロが続いている。

15) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（6月 2名）。2020年11月～2022年4月は、同時期として過去10年間で最少が続いた。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名（6月 15名）。平年並みである。高知市、中央東、安芸から表記の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（6月 1名）。年1-2名の報告が続いている。

高知県感染症発生動向調査部会

前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和4年7月）

類型	病名	報告月							総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
2	結核	6	5	8	6	4	9	1	39
3	腸管出血性大腸菌感染症							2	2
4	E型肝炎				1				1
	重症熱性血小板減少症候群			1					1
	日本紅斑熱					1	1	1	3
	レジオネラ症	1					2		3
5	アメーバ赤痢	2					1		3
	ウイルス性肝炎					1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			1		1	1		3
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1				1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1				3
	後天性免疫不全症候群						1		1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1						2
	侵襲性肺炎球菌感染症			2					2
	水痘（入院例に限る）			1		2			3
	梅毒	2	4	4	6	2	5	2	25
総計	播種性クリプトコックス症						1		1
	破傷風			1					1
	百日咳					1			1
		12	11	19	15	12	21	6	96

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2022年

7月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ										
小児科	咽頭結膜熱		11	23			17	51	74	27	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	9	2	3	5	20	60	55	
	感染性胃腸炎	3	30	89	20	5	43	190	346	343	
	水痘	1	1	14	1	2	1	20	10	13	
	手足口病	1	1	7				9	9	167	
	伝染性紅斑		1	1				2		3	
	突発性発疹	2	11	21	1	5	5	45	73	51	
	ヘルパンギーナ		7	8	1		3	19	6	260	
	流行性耳下腺炎	1	1					2	7	3	
	RSウイルス感染症		45	28	2	4	1	80	1	1,543	
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			4				4	4	2	
STD	性器クラミジア感染症			3				3	6	3	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ						1	1		1	
	淋菌感染症								1		
基幹	細菌性髄膜炎									1	
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎								2		
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)								1		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	18				21	15	21	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症									1	
計		9	111	225	27	19	76	467	616	2,494	
前月		19	99	275	60	40	123				
前年同月		55	466	1,291	217	89	376				
小児科定点数		2	7	11	3	2	5				

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

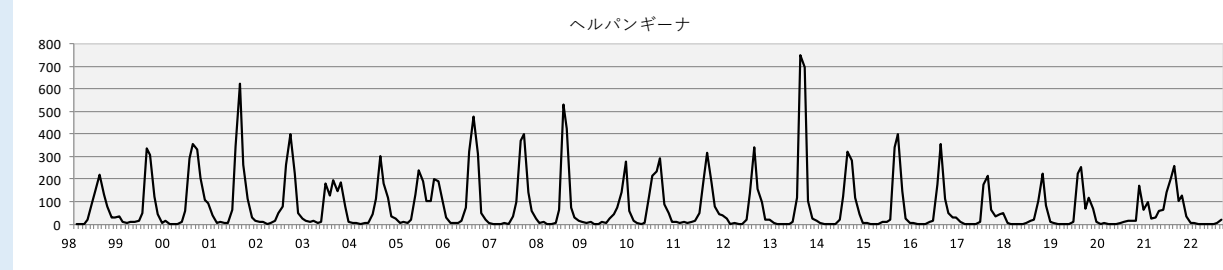
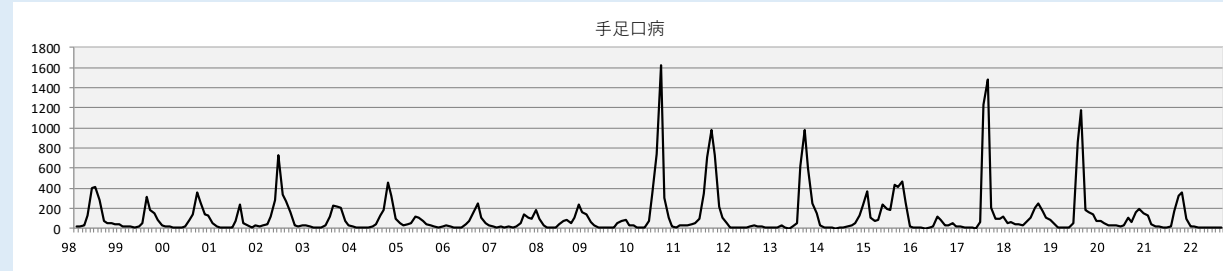
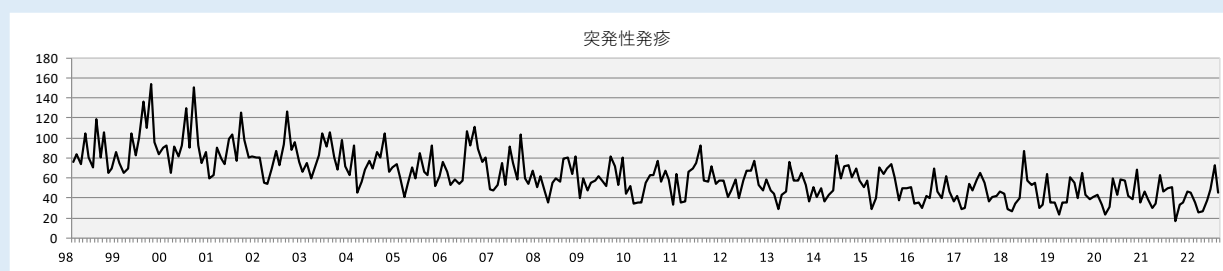
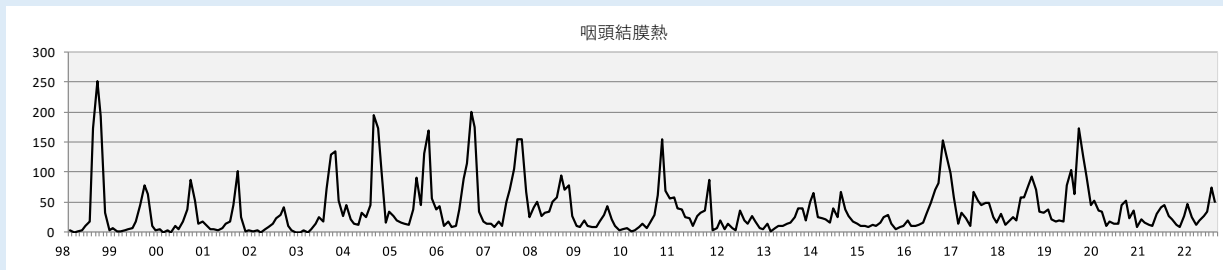
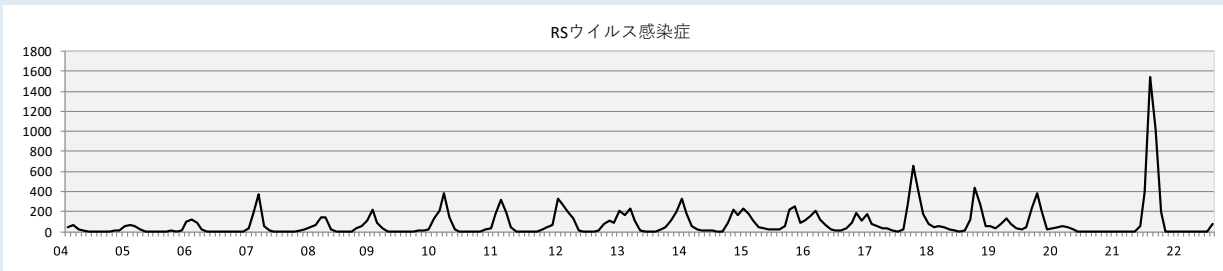
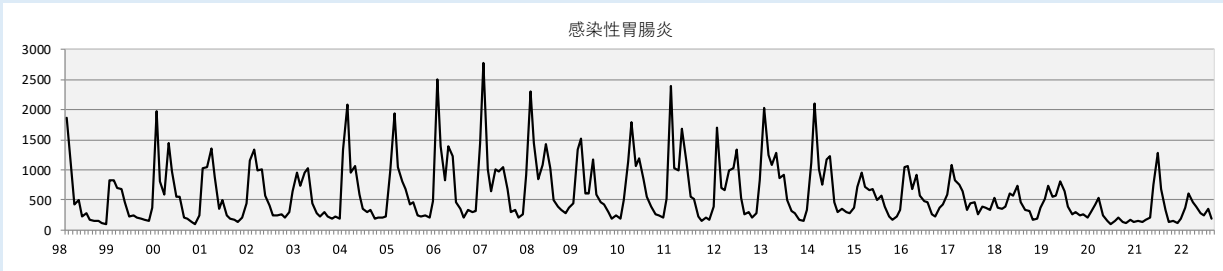
2022年

7月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ									
小児科	咽頭結膜熱		1.56	2.55			3.40	1.82	2.64	0.96
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.99	0.66	1.50	1.00	0.71	2.14	1.97
	感染性胃腸炎	1.50	4.28	9.89	6.66	2.50	8.60	6.79	12.36	12.25
	水痘	0.50	0.14	1.55	0.33	1.00	0.20	0.71	0.37	0.47
	手足口病	0.50	0.14	0.77				0.33	0.32	5.97
	伝染性紅斑		0.14	0.11				0.08		0.11
	突発性発疹	1.00	1.58	2.33	0.33	2.50	1.00	1.62	2.61	1.82
	ヘルパンギーナ		1.00	0.89	0.33		0.60	0.68	0.23	9.28
	流行性耳下腺炎	0.50	0.14					0.08	0.25	0.12
	RSウイルス感染症		6.43	3.11	0.66	2.00	0.20	2.86	0.04	55.11
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4.00				1.34	1.33	0.66
STD	性器クラミジア感染症			1.50				0.50	1.00	0.50
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ						0.50	0.17		0.17
	淋菌感染症								0.17	
基幹	細菌性髄膜炎									0.13
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎								0.26	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)								0.13	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.00	2.00	3.60				2.63	1.88	2.63
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症								0.13	
	薬剤耐性緑膿菌感染症									0.13
小児科定点分計		4.00	15.55	22.19	8.97	9.50	15.00	15.68	20.96	88.06
前月		8.00	13.71	28.09	19.98	20.00	24.20			
前年同月		27.50	65.86	140.76	72.33	44.50	75.20			

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																					総計									
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022						
2	結核													131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	39	1914		
	計													131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	39	1914		
3	コレラ	1					1						1																	3		
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2														2							27		
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1					2	209			
	腸チフス		1						1								1									1				4		
	パラチフス	2																												2		
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0				2	245			
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1							2				34		
	E型肝炎												1		1											2	1		1	6		
	オウム病			1		1																1								3		
	Q熱	1	1	2				1																						5		
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	4	1			1	54		
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3	3	4	11	2	3	3	1				1	94		
	デング熱													1		3	2	1							2					9		
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	3				3	214		
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1																	6		
	マラリア								2					1												1				4		
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	3					92		
	レプトスピラ症											1		4	2	1						1								9		
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	8				530			
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	3				3	51		
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1								2	1	1	2	2	63		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	5	3			3	128		
	急性弛緩性麻痺																						1	2						3		
	急性脳炎									1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1				1	22		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				2	1	1	3				1	36			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1			1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5	3				3	36		
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6						1	82		
	ジアルジア症			1	2	1					1			1	1							1								8		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	1	2			2	27		
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	2				109			
	水痘（入院例に限る）																2	1	1	3			3	3	3				16			
	髄膜炎菌性髄膜炎											1																		1		
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	25				352			
	播種性クリプトコックス症																				1	3	5						1	10		
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	1				37			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1						1				1								5		
	百日咳																										173	172	35	3	1	384
	風しん										1	1			4	9	1					3								19		
	麻疹											5																		5		
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	47				1394			
新型	新型インフルエンザ																													34		
	新型コロナウイルス感染症																													663	3505	4168
	計																													902	3505	4441
動物	鳥インフルエンザ																													1	1	
	計																													1	1	
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	96				8525			